

教育委員会月報



文部科学省

特集

部活動の地域連携や 地域クラブ活動への移行に関する 最近の国の取組について

Series 地方発! 我が教育委員会の取組

- 高知県教育委員会 / ● 愛知県豊橋市教育委員会

お知らせ ▶ 令和5年度「学校における男女共同参画研修」実施報告について
▶ 歌舞伎俳優・文楽 研修生募集

人事異動あいさつ



2023年11月10日発行 第75巻8号

2023 November



特集

- 部活動の地域連携や
- 地域クラブ活動への移行に関する
- 最近の国の取組について [1](#)

Series 地方発! 我が教育委員会の取組

- 心と人と未来をつなぐ「高知家」の教育
～次期高知県教育振興基本計画の策定に向けて～
高知県教育委員会 [3](#)

- 小学校放課後の新たな学びの場「のびるんdeスクール」
～子どもの可能性は無限大～
愛知県豊橋市教育委員会 [8](#)

- お知らせ ▶ 令和5年度「学校における男女共同参画研修」
実施報告について [12](#)

- ▶ 歌舞伎俳優・文楽 研修生募集 [14](#)

- 人事異動あいさつ [15](#)

部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に関する最近の国の取組について

スポーツ庁地域スポーツ課・文化庁参事官(芸術文化担当)付

1. 令和4年度までの取組

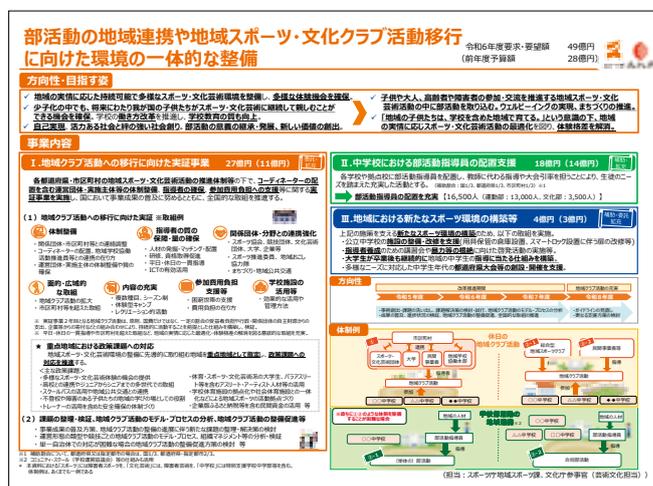
少子化が進む中でも、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保し、生徒のニーズに応じた多様で豊かな活動を実現するためには、「地域の子供たちは、地域で育てる」という意識の下、地域のスポーツ・文化資源を最大限活用しながら部活動改革を推進することが必要不可欠です。

スポーツ庁・文化庁では、令和4年12月に、学校部活動の適正な運営や効率的・効果的な活動の推進とともに、学校部活動の地域連携並びに地域の運営団体・実施主体による地域スポーツクラブ活動及び地域文化クラブ活動への移行に取り組むべく、平成30年の運動部活動と文化部活動のガイドラインを統合した上で全面的に改定し、新たに「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を策定し、国としての取組の方向性等を示しました。

2. 国の予算支援

令和5年度予算では、地域移行に向けた実証事業や部活動指導員の配置等に必要な経費として28億円を計上しています。このうち、部活動の地域移行に関する実証事業においては、運動部活動では全国339市区町村が、文化部活動では県立学校含む97市区町村（文化部のみ実施は23区市町）にて、取組が進められています（令和5年9月現在）。さらに、令和6年度概算要求においては、部活動の地域連携や地域スポーツ・文化クラブ活動移行に向けた環境の一体的な整備として49億円を計上し、その中で、より多くの自治体において実証事業が実

施できるよう、地域移行に向けた実証事業に係る経費として27億円を要求・要望しました。



本事業では、今年度実施している全国的な取組の推進に加え、地域スポーツ・文化芸術環境の整備に先導的に取り組む地域を重点地域として指定し、政策課題への対応を推進するための経費を計上しています。また、課題の整理・検証、地域クラブ活動のモデル・プロセスの分析、地域クラブ活動の整備促進等に係る経費も計上することで、事業成果の更なる普及や、事業実施の中で出てきた新たな課題にも対応してまいりたいと考えています。

3. 実践研究事例集の公表

昨年度に引き続き、本年9月には、令和4年度における運動部活動及び文化部活動の地域移行等に関する実践研究事例集を公表しており、全国における様々な工夫あふれる事例等を紹介しています。今年度公表の事例集は、

より分かりやすい形で作成しており、例えば運動部に関する事例集では、地域移行に関するよくある質問や、責任の所在を定めている事例などを盛り込んだコラムを記載しておりますので、ぜひご参考としていただければ幸いです。

○運動部活動の地域移行等に関する実践研究事例集（スポーツ庁HP）



○文化庁活動の地域移行に関する実践研究事例集（文化庁HP）



他省庁の関連予算事業（地域おこし協力隊、地域交通共創モデル実証プロジェクト）も含め、部活動改革に関係する様々な情報をまとめた、部活動改革ポータルサイトも開設しており、月2回程度を目安にコンテンツの充実を図っておりますので、こちらも是非ご参照ください。



4. 自治体の取組状況

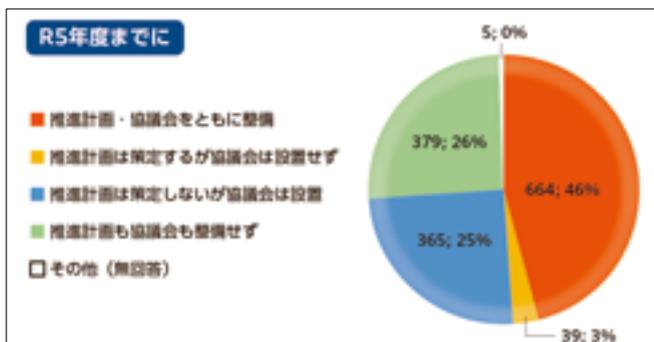
スポーツ庁が本年6～7月に行った調査（回収数 1452 自治体（回収率約 80%））によれば、5割に近い自治体が令和5年度中に推進計画の策定及び協議会の設置を行う予定としていました。協議会の設置予定については、既に4割の自治体が設置済みとの回答で、更に残り3割の自治体は令和5年度中に設置予定と回答しており、協議会の設置を端緒としつつ、令和5年度中には部活動改革に乗り出そうとしている自治体が7割にも上ることが分かっています。また、既に先進的な自治体では各種課題への対応に係る好事例も出てきているところです。

○部活動改革ポータルサイト（スポーツ庁HP）



また、自治体における取組を支援するため、「地域スポーツクラブ活動アドバイザー事務局」を設置しており、自治体からの相談・問い合わせに対応しています。今夏には、自治体における会議へのアドバイザーの派遣依頼もいただき、対応してきているところです。

○アドバイザー事務局問い合わせ先



部活動の地域移行関係者の皆様におかれては、部活動の地域移行に関する実証事業の予算等も活用いただきながら、ガイドラインや通知、事例集等も踏まえ、部活動の地域連携・地域移行への御理解・御協力のほど、どうぞよろしくお願いたします。

5. 情報発信等について

文部科学省では、部活動の地域連携・地域移行に関する情報発信にも力を入れています。自由にご利用いただけるチラシ・ポスターや、FAQや全国の事例、更には

心と人と未来をつなぐ 「高知家」の教育

～次期高知県教育振興基本計画の策定に向けて～

はじめに

「一人一人がなりたい自分や目標をもとに、必要な勉強を自分で選択でき、実践的に学びたいです。」「理想的な学校は、『生徒の声を柔軟に取り入れる学校』。今の学校は、意見を出しても聞き流されてしまう。生徒と先生が時間をかけて話し合う機会を設けるべきです。」

令和5年7月に初めて開催された、県内の高校・特別支援学校に通う生徒5名の委員からなる「次世代総合教育会議」の場で、県知事や県教育長を前にして発せられた教育を受ける当事者の「声」です。

我々はその「声」に応えられる十分な取組を進めることができたのでしょうか。

その「声」を未来につなげることでできる実効性のある次期高知県教育振興基本計画を策定しなくてはならないと、身の引き締まる思いになりました。

1. これまでの取組

高知県教育委員会では、第3期高知県教育振興基本計画（期間：令和2～5年度）において、「学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち」「郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材」を基本理念（目指すべき人間像）として掲げ、「知」「徳」「体」の基本目標の達成に向け、「チーム学校の推進」や「厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実」など6つの基本方針、「不登校への総合的な対応」「学校における働き方改革の推進」の2つの横断的取組に沿って、施策を推進してきました。

そして、今年度、現行の教育振興基本計画の最終年度を迎え、次期基本計画策定に向けて、これまでの取組

を検証するとともに、各関係者との対話により、本県の教育や「理想の学校の姿」等について協議を重ね、真に実効性のある次期基本計画になるよう、取組を進めています。



現行の第3期高知県教育振興基本計画

2. 「デジタル化」「グリーン化」「グローバル化」の観点に沿った取組

それでは、本県の特色ある取組について、県政の重点的な取組の方向性として定めている「デジタル化」「グリーン化」「グローバル化」の観点に沿って、一部紹介します。

(1) デジタル技術を活用した教育の充実

① 学習支援プラットフォーム 「高知家まなびばこ」の活用促進

本県では、県内の全公立学校の児童生徒・教職員一人一人に、同一ドメインのアカウントを発行しています。その結果として、小学校入学時から高校卒業まで同じアカウントで運用するため、学習データの連続性が確保されています。また、こうした環境を生かして、高知県独自の学習支援プラットフォーム「高知家まなびばこ」を令和3年度から運用しています。

「高知家まなびばこ」の機能は、大きく以下の3つです。

○ 「児童生徒が自ら選ぶ、学ぶ、進む」

デジタル教材や学習支援動画を学年別・教科別に掲載しています。小・中・高の校種を一つのページにまとめることで、「学びを振り返りたい」「先に進んでみたい」といった児童生徒のニーズに応えることができる構成となっています。

○「教員が教材を選べる、使える」

教職員のみがアクセスできる共有フォルダに教材を格納し、学習の進度に合わせて教員がこれらの教材を選んで使用できるようになっています。

○「『気持ち』に気づく」

児童生徒がその日の気持ちや体調を入力すると、教職員が速やかに把握することができ、早期の対応等につなげることができる「きもちメーター」を運用しています。過去の入力履歴を確認できることから、児童生徒の気持ちの変化等に気づく効果的なツールとして活用されています。なお、昨年度、自由記述欄において、事前に登録した気になる用語を児童生徒が記載した場合に、アラートを出す機能等を追加しましたが、これはいただいた現場の「声」を参考に導入したものです。

今後は、この「高知家まなびばこ」において、高知県版の学力調査やデジタルドリルの学習結果等のスタディ・ログ（学習履歴）を集約し、全教員や児童生徒にフィードバックすることで、学習指導の充実や主体的・自主的な学習を促進する仕組みの構築も予定しています。また、新たに保護者にも同一ドメインのアカウントを発行し「高知家まなびばこ」にアクセスできるようにすることで、保護者への情報提供を充実させていきます。さらには、学校・教職員から保護者への連絡業務の負担軽減につながる機能拡充等を進めていく計画です。



学習支援プラットフォーム「高知家まなびばこ」

② 遠隔教育システムを活用した支援の充実

中山間地域の小規模高等学校等が多い本県では、学

校や地域の違いが教育機会の差につながらないように、生徒の多様な進路希望を実現するために、遠隔教育システムを活用した遠隔授業や補習を積極的に実施しています。配信方法としては、県教育センター内にある「遠隔授業配信センター」（近隣の高校の分室）から配信する「配信拠点型」という方法と、A高校からB高校に授業を配信する「学校相互型」を実施しています。「遠隔授業配信センター」を拠点として授業等を配信する方式は、全国から見ても本県が先んじて取り入れたものです。

○令和元年度：補習配信スタート

○令和2年度：単位認定を伴う遠隔授業開始

○今年度：16校の小規模高校等に対して配信

他にも生徒や学校のニーズに沿って、遠隔システムを活用し、大学入試対策や公務員試験、各種資格試験等の補習や色々な分野で活躍されている本県出身の方によるキャリア教育講演会なども行っています。

さらには、遠隔教育システムを活用して、小規模中学校の免許外指導担当教員への支援に取り組むとともに、児童の協働的な学びを充実させるため、小学校複式学級における遠隔授業に関する研究も進めており、これからは課題やニーズに応じた新たな取組を展開できる手法として、本システムの活用を積極的に進めていきたいと考えています。



遠隔授業の様子



「遠隔教育」をドラマ形式で紹介する動画



前編



後編

(2) 学びをつなげる環境教育の推進

最近、テレビドラマのモデルともなって話題となった植物学者の牧野富太郎博士を輩出した本県は、森林率全国1位の森林資源をはじめとする豊富な自然資源を有しています。そのような本県の特徴も生かして、持続可能な社会の創り手となる子どもたちの資質・能力を育成するため、就学前・小・中・高等学校等において体系的な環境教育を推進するとともに、環境教育に係る教員の指導力の向上や学習機会の充実を図っています。また、身近にある豊かな自然資源を活用して、体験を中心とした森林環境教育を推進することのできる人材（森林活用指導者）を育成しています。



本県の特徴を生かした環境学習（仁淀川）



森林活用指導者を活用した森林環境学習（梶原町）

(3) 高知県版グローバル教育の推進

本県では、「郷土を愛し、その発展に貢献できる人材や、高い志を持ち高知から世界へチャレンジするグローバル人材」の育成を図るため、推進校を中心に、探究型学習と英語教育を組み合わせたグローバル教育を推進してい

ます。特に、県立高知国際中・高等学校においては、「国際バカロレア」の取組を実践し、これらの手法や取組成果を県内の学校に普及させるとともに、国際交流を含む多様な価値観に触れる活動を推進することなどを通して、広くグローバル教育の推進を図っています。（高知国際中・高等学校は、国際バカロレアのMYP〔中学校段階のプログラム〕認定を令和2年度に、DP〔高等学校段階のプログラム〕認定を令和3年度に受けています。）



1人1台タブレット端末を活用した国際交流

3. 次期基本計画策定に向けて

現行の教育振興基本計画が最終年度となる今年度、これまでの取組の成果や課題をしっかりと検証することはもとより、昨今の生成AIの発展や「ウェルビーイング（Well-being）」という考え方への注目の高まりなどのさまざまな社会情勢の動向等も踏まえながら、今後の本県の教育の在り方を示す次期基本計画を検討していかなければなりません。今回、次期基本計画を策定するうえで、新しい試みとして、様々な関係者の方と「対話」をしたり、「声」をお聴きしたりするという過程を意識しています。その関係者との「対話」や「声」をお聴きする取組として、今年度実施した高校生5名の委員による「次世代総合教育会議」と「若者の『声』募集」の取組をご紹介します。

(1) 次世代総合教育会議

ご案内の通り、現在、様々なルール決定や取組の決定・運用にあたっての子ども意見表明・参加の場の確保を促進する動きが展開されています。国の第4期教育振興基本計画の策定過程においても、子ども・若者から意見を聴くことなどを通して、より多角的な視点からの検討が

行われたと、今年3月の高知県総合教育会議にお越しいただいた文部科学省の教育企画調整官からもご説明をいただいたことで、本県においてもより具体的な動きとなり、会議開催の運びとなっていきました。

このような流れを受け、次期教育大綱・次期基本計画の議論にあたって、「教育の当事者」として代表的な存在である生徒（高校生）から、教育の在り方等についてご意見をお伺いする場を設定することとしました。委員の選出については、県立・私立の校長会等のご意見も伺いながら、県内の高等学校等の縮図となるよう、学校数の比率も踏まえて、普通科、専門系、中山間地域の県立高校の3名、県立特別支援学校高等部の1名、私立高校の1名という委員メンバーとしました。

5名の委員とは、およそ3ヶ月間、県教委職員との事前の打ち合わせやオンライン交流会、学校訪問による中間発表等を重ね、「はじめに」にも記したように、今年7月に、県知事、県教育長及び教育委員参加のもと、「次世代総合教育会議」を開催しました。

その場で、委員より挙げられた「声」は、「もっと主体的に学習がしたい!」「自分たちの意見や考えを伝える場がほしい!」ということでした。

県知事からは、「今後の方向性として高校生の委員からご示唆いただいたことについて、しっかりと受け止めて次の教育大綱に反映をさせていきたい。こうした形で話し合いの場が持てたことは大変貴重だし、うれしいひと時であった。今後も対話を続けていきたい。」という高校生へのメッセージもあり、今後も関係者と対話をすることを大事にしていくことが確認されました。この「次世代総合教育会議」は、次年度以降も開催し、教育の当事者の「声」をお聴きして、教育施策に反映するとともに、その「声」を紹介していきたいと考えています。



次世代総合教育会議



紹介動画



会議資料

(2) 若者の「声」募集

さらに、県内の高等学校・特別支援学校高等部に在学している生徒や、県内に在住している16～18歳までの若者から、高知県の教育や学校に対する「声」を本年度5～6月に募集しました。

「今の教育や学校は、ここがいい。ここは変えてほしい。」「学校等ではこういうことを勉強してみたい。こういうことを活動したい。」などといった、生徒や若者の経験や考えなどをもとにした意見や提案を301件いただきました。その「声」は、会議や広報誌等で紹介され、行政や学校、そして教職員一人一人と様々な主体において、これまでの教育や学校の在り方を振り返り、今後の施策を検討するための大事な資料となっています。

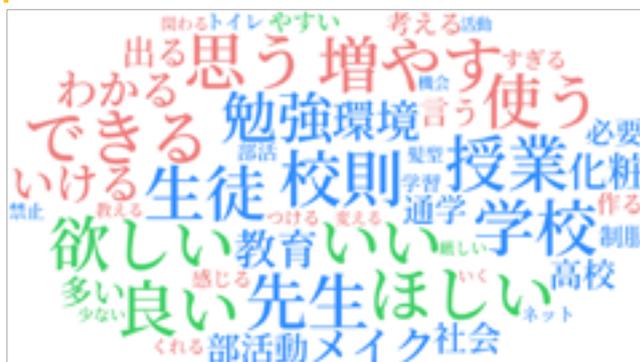


若者の「声」資料

高知県の教育・学校についての若者の「声」

いただいた「声」テキストマイニング(※)で分析してみました。

(※) テキストマイニング: 多くの文章から、例えば、それぞれの単語等の出現頻度や相関関係などを集計・分析する方法



※ユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) による分析

その他にも、教職員や大学生、各関係団体との対話の場を設定し、学校や教育についての貴重なご意見をお聴きすることができました。いただいた「声」については、次期基本計画の内容に反映すべく策定作業を進めています。

<「対話」を実施した関係者・当事者>

✓ 高等学校・特別支援学校高等部に通っている生徒などの若者	✓ 視学官教育・保育関係者
✓ 若年・中堅の教職員	✓ 小中学校、県立学校の校長
✓ 教職を目指す大学生	✓ PTA関係者
✓ 市町村教育長	✓ 社会教育委員



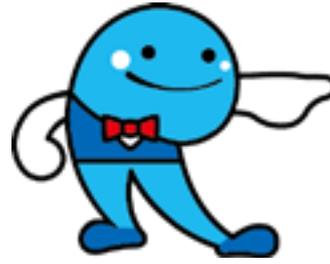
現在の次期基本計画の策定状況は、下の会議資料からご覧ください。



高知県総合教育会議



高知県教育振興基本計画推進会議



とさまなチャンネル

今後も、高知県教育振興基本計画で定める基本理念の実現に向けて、「心と人と未来をつなぐ『高知家』の教育」を推進していきます。

おわりに ～「とさまなチャンネル」で情報発信!～

高知県教育委員会事務局では、県民の方をはじめ、多くの方々に親しみをもってもらえるような本県の教育に係る広報コンテンツを、誰でも気軽に、いつでもご覧いただけるように、今年6月にYouTubeチャンネル「とさまなチャンネル」を開設しました。

様々な状況が急速に変化をし、将来の予測が困難になっている現在において、社会に羽ばたく子どもたちが必要な力を身に付けるためにも、「教育」の役割は非常に重要です。「とさまなチャンネル」では、その「教育」の役割を県民の皆様等にご理解いただけるよう、「分かりやすく」「馴染みやすく」をコンセプトに、本県の学校や教育現場において、子どもたちがいきいきと元気に学ぶ姿や活躍の場面、学校の先進的・意欲的な取組、特色ある教育施策等に係る動画を制作し、高知県の教育の魅力を多くの方々に発信していきたいと考えています。



小学校放課後の新たな学びの場 「のびるんdeスクール」

～子どもの可能性は無限大～

はじめに

豊橋市は公立の小学校 52 校、中学校 22 校、児童生徒数は小中合わせて約3万人の、愛知県東部に位置する中核市です。

本市小学校における放課後は、令和2年度まで過去60年以上にわたり陸上、水泳、球技、体操、吹奏楽等の部活動をしていました。また、児童クラブに関しては、昭和52年度から父母会により民営児童クラブが発足し、その後、民営児童クラブのない校区を補うかたちで平成5年度より公営児童クラブが設立しました。令和5年度現在、民営児童クラブが40クラブ、公営児童クラブが58クラブ開所しています。そのほか、放課後子供教室事業としては、運営を地域に委託し実施する「放課後子供教室」、「地域いきいき子育て促進事業・トヨキースクール」などがあります。そして、令和4年度から、部活動廃止により生まれた放課後の時間を活用し、放課後の新たな学びの場として、「のびるんdeスクール」が市内全小学校で始まりました。

1. のびるんdeスクールの 取り組みについて

(1) 歩み

令和2年度は2校で実施し、令和3年度は12校に実施校を拡大、令和4年度の2学期より市内全52校で実施を開始しました。

(2) 事業目的

「のびるんdeスクール」は、以下2つの事業目的のもと、

遂行しています。

- ① 大人との交流及び子ども同士の交流による健全育成、社会性の向上
- ② 多様な体験活動による子どもたちの能力発掘

(3) 「のびるんdeスクール」の具体的な内容

① 体験活動の重視

当初は、週1回程度の体験活動を実施していましたが、事業目的②にもあるように、多様な体験活動を子どもたちに経験してもらうことが本事業の目的を果たすと考え、実施日はすべて体験活動を実施するシステムにしました。



【スポーツ】トランポリン教室



【カルチャー】ジャンベ太鼓教室

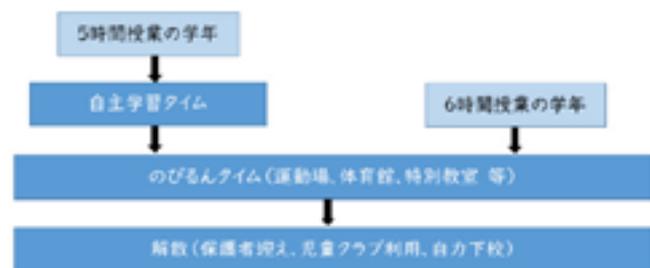


【アカデミー】プログラミング教室

体験活動には外部から講師を招聘し、外部講師の体験活動内容に応じて、「スポーツ」「カルチャー」「アカデミー」のカテゴリーに分け、市内全52校での体験活動を実施することに加え、現場指導員（リーダー・サブリーダー）による、「指導員企画」教室も用意しました。

②活動スケジュール

「のびるん de スクール」で実施する活動は、すべて放課後の教室を活用して実施しています。そのため、子どもたちは授業を終えるとそのまま「のびるん de スクール」の活動場所へと移動できることが利点です。5時間授業の学年は、まず「自主学习」に取り組み、その後、6時間授業を終えた学年と合流して「のびるんタイム」（体験活動）を実施します。実施終了後の下校方法は、「保護者迎え（自宅から徒歩での迎えが原則）」「自力下校（自分で通学路を歩いて帰宅）」「児童クラブへの移動（のびるん de スクール指導員が児童クラブまで引率）」があり、それぞれの方法に分かれて解散します。



③参加手続き等の流れ

「のびるん de スクール」の参加については、市内の全児童が対象ですが、参加するには事前の登録（無料）が

必要になります。スマートフォン等から市のホームページを検索してもらい、「のびるん de スクール専用ページ」から「保護者・児童情報の登録」が済むと子どもは参加できるようになります。次に保護者は、子どもがどの体験活動に参加する予定なのかを事前に登録してもらう「予定表の登録」や「日々の出欠席変更申請」を行います。子どもが参加するまでに手間のかかる作業を保護者に多く依頼するようになるかもしれませんが、これらの作業は子どもの安全を確保するために必要不可欠な作業だと、本市では考えています。子どもたちの放課後の動きについて、運営側も保護者もしっかりと把握できることが大切であり、保護者への安心感につながります。こうしたなか、少しでも保護者への負担軽減を目指し、令和5年度から、「kintone システム」を導入しました。これにより、従来利用していたシステムより情報連携の円滑化が図られ、「利用しやすい」、「わかりやすい」という保護者の感想をいただくことができました。本市への問い合わせも昨年と比べて大幅に減少しており、「kintone システム」の導入は、保護者の負担を軽減するうえで大きな効果があったと考えています。

また、「のびるん de スクール」は参加1回につき300円の利用料金がかかります。こちらは、それぞれの子どもの利用回数と利用合計金額を計上し、学期ごとまとめて保護者に利用料をお支払していただきます。令和4年度までの支払い方法は銀行や郵便局での振り込みに限定されていましたが、令和5年度からは、コンビニ決済またはスマートフォン決済にて支払うことを可能にしました。なお、本市が認可している児童クラブに通っている子どもたちは、この利用料金は無料になっています。



④活動保険料

「のびるん de スクール」は体験活動を重視しているた

め、活動中にケガ等が発生することが予想されることから、年間 800 円の活動保険への加入を必須としていました。しかしながら、年間を通じて1~2回しか体験活動を利用しない場合でも保険加入が必要になることから、保護者にとって負担になっているという反省から、令和5年度には、市で一括して「のびるん de スクール」に関する活動保険に加入することとしました。このことも、「kintone システム」の導入と同様、保護者の負担軽減を進めています。

⑤ 「のびるん de スクール」のスタッフ

各スクールには、現場を統括する「指導員リーダー」が1名、指導員リーダーの業務の補助を行う、学校規模に応じた数の「指導員サブリーダー」を配置しています。また、これらの指導員をサポートする「サポーター」を、シルバー人材センターから派遣してもらい、配置しています。上記の常時スタッフに加え、体験活動を担う「外部講師」もあり、元プロバスケットボール選手から医療従事者、ラジオパーソナリティと、法人から個人まで多種多様な講師を揃えています。

指導員に資格要件は設けていませんが、教員OBであるコーディネーターが現場を巡回したり、年に数回研修会を実施するなど、指導員の育成を行っています。そのほか、各スクールの運営面や管理面を補助するマネージャーもこの事業を大いに支えています。

⑥ 新・放課後子ども総合プランの実行

本事業の活動は、学校の理解を得ながら学校施設（体育館、音楽室、図工室、普通教室等）をフル活用しています。また、「のびるん de スクール」参加後に、「児童クラブ」へ行くことを希望する児童については、「のびるん de スクール」指導員が児童クラブまで引率し、児童クラブ支援員に引き渡しをしています。児童クラブへ毎月の出席者一覧の提供も行っており、互いに子どもの安全・安心を第一に協力し合って、連携をしています。

2. これまでの成果

本事業を遂行していくにあたり、これまでの成果を、以下のようにまとめました。

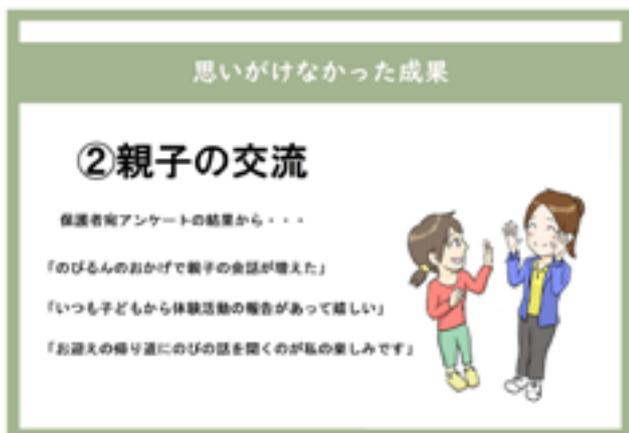
(1) 地域を支える大人の輪が広がった

「のびるん de スクール」の外部講師や地域の大人からなる運営スタッフは約 600 人おり、各スクールにて、子どもたちと活動し、交流を深めています。これまで、「地域の活動=校区の活動」という概念がありましたが、「のびるん de スクール」は、豊橋全体の大人が、豊橋全体の子どもたちの成長に貢献したいという思いをもったスタッフが集まり、一丸となって活動を進めることができます。「地域は校区」から「地域は豊橋全域」という考え方に変わった事業であると考えます。



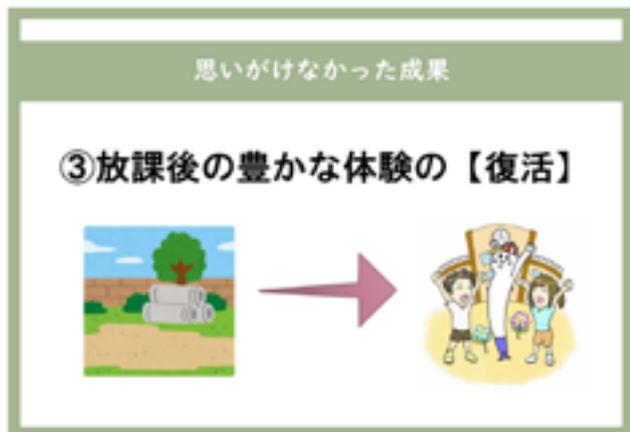
(2) 親子の交流が深まった

「のびるん de スクール」に参加するためには事前に予定表を登録する必要があります。どの活動に参加しようか、児童と保護者間でのやりとりが自然と生まれます。保護者からは、「帰り道に、「のびるん de スクール」の報告を聞くことが私の楽しみです。」などの声を頂いています。「のびるん de スクール」での体験活動を子どもが親に話すという流れが自然にでき、親子の交流の深まりを実感しています。



(3) 放課後の豊かな体験が復活した

かつて、子どもたちは放課後に公園や空き地に集まって遊んでいたと思います。学校外の空間で仲間づくりや遊びの工夫を子どもたち自身でできていました。「のびるん de スクール」は、公園や広場が、学校に変わっただけだと捉えています。普段味わうことのない貴重な体験活動の場が復活できていると感じています。

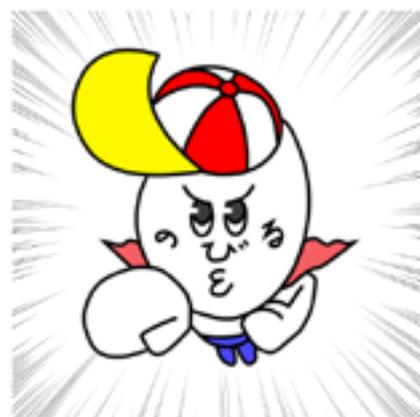


(4) 不登校等児童への支援の一助になっている

学校に行きづらさを感じている子どもが、「のびるん de スクール」には参加することができたという事例が数件あります。学校の授業とは違った視点から子どもの興味関心を広げるカリキュラムや、他クラス・多学年の子どもたちとの交流の中で実施する「のびるん de スクール」の環境が、子どもにとって参加しやすいと感じてもらっているのかもしれません。今後も、学校の不登校等対策の一助となるように本事業を進めていこうと考えています。

おわりに

本事業は多くの思いがあって始まった事業ですが、何よりも「未来ある子どもたちのために!」という思いのある大人たちがいて立ち上がりました。ゴールデンエイジと呼ばれる年代の子どもたちの吸収力は計り知れず、この貴重な限りある時期に、放課後のわずかな時間を使って、1つでも多くの体験を子どもたちに提供し、多くの得意を発見・発掘し、可能性の幅を広げていってほしいと考えます。今後も、放課後教育の充実を図ることで、本事業目的である子どもの健全な育成が促進されるとともに、子どもの豊かな体験活動が展開できるよう、取り組みを推進していきたいと思っています。



「のびるん de スクール」マスコットキャラクター: のびたろう
 豊橋市「のびるん de スクール」ホームページ
<https://www.city.toyohashi.lg.jp/42190.htm>

令和5年度「学校における男女共同参画研修」 実施報告について

国立女性教育会館

国立女性教育会館（NWECC）では、7月25日（火）～9月25日（月）に教育長・教育委員、教育委員会及び教育センター等の管理職・管理主事・指導主事・職員、初等中等教育学校・特別支援学校の管理職・教職員を対象に「学校における男女共同参画研修」を実施しました。

本研修は、初等中等教育における女性の意思決定過程への参画を促進するための社会的気運の醸成を図ることを趣旨とし、学校における男女共同参画に関わる現状・課題を把握し、女性の管理職登用促進に向け、組織の実情に合わせた課題解決の方策を探ることを目的としています。

今年度は定員を大幅に上回る申込みがあり、全国から約430名の参加を得ました。

研修の期間中、オンデマンド配信による講義や座談会等のプログラムを提供し、8月18日（金）には、希望者みのライブ配信プログラムにより、管理職を増やすために必要な支援等について、「働き方改革と慣習の見直し」「ワークライフ・バランスと女性のキャリア形成支援」「組織風土と人材の育成」のテーマで参加者同士のディスカッションを実施しました。



座談会「女性の管理職登用の促進をめぐる課題と今後の方策」

（左上）田村 砂弥香 千代田区立麹町小学校校長

（右上）吉田 直史 山形県教育局教育次長

（左下）コーディネーター：百合田 真樹人 独立行政法人教職員支援機構教授

（右下）国立女性教育会館事業課職員：石川 麻裕子 専門職員

学校教育においては、女性の管理職割合は増えているものの十分ではなく、地域や校種によって差が見られます。本研修では、女性管理職登用の促進の必要性について専門家が解説し、男女共同参画の基本理念やその実現に向け

た学校教育や教職員の役割、学校現場等における女性のキャリア選択の現状やその背景に根強く残る固定的な性別役割分担意識といった課題についても言及しました。また、文部科学省や教育委員会からは、学校における人材の育成やキャリア形成についての情報提供があり、今後の学校現場での取組に向けて必要な視点や具体的な実践例も示され、課題解決に向けたヒントを得ることができました。

研修全体に対する参加者の満足度も大変高く、「学校文化や働き方改革の推進、女性教員の意識改革、モチベーションアップを図るなど、さらなる取り組みを進めていきたい。」「多様な視点からのアプローチが今後必要だ。」「どのように格差が存在しているのかが確認でき、実践している取り組みの内容や考えを知り、考えるヒントをいただいた。」「女性の管理職登用に焦点をあてるということは社会全体の働きやすさにつながることを感じた。」等の感想が寄せられました。

歌舞伎俳優・文楽 研修生募集

文化庁企画調整課

国立劇場伝統芸能伝承者養成所（独立行政法人日本芸術文化振興会）では、令和6年度に開講する歌舞伎俳優研修、文楽研修の研修生を募集しています。

● 伝統芸能の次代を担う伝承者を 実践的カリキュラムで養成

伝統芸能は、無形の技であり、人から人へと伝承されるものです。独立行政法人日本芸術文化振興会では、伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、伝承者を安定的に確保するため、国立劇場養成所において、歌舞伎俳優、歌舞伎音楽（竹本・鳴物・長唄）、大衆芸能（寄席囃子・太神楽）、能楽（ワキ方・囃子方・狂言方）、文楽（太夫・三味線・人形）、組踊（立方・地方）の伝承者養成を目的とした研修を行っています。

研修では、各分野の実演家が講師として実技指導するほか、講義や発表会等のカリキュラムを組み、2年から3年（能楽のみ6年）をかけて行われます。研修修了者は、舞台出演の経験を重ねながら技芸を磨き、伝承者として伝統芸能の保存及び振興に大きな役割を果たしています。

● 伝承者をめざす、 意欲ある研修生を募集

現在、令和6年度開講に向けて研修生を募集しています。研修には、特別な資格や経験を必要とせず、未経験者でも応募することができます。

受験料・受講料無料、宿舍、奨励費貸与制度もあります。



■ 募集要項 ■

① 第29期歌舞伎俳優研修

【応募資格】 中学校卒業（見込みを含む）以上の男子で、原則として年齢23歳以下の方

【応募締切】 募集中～令和6年2月2日（金）必着

【選考試験】 令和6年2～3月を予定

【研修期間】 令和6年4月～令和8年3月

【研修場所】 国立オリンピック記念青少年総合センター（渋谷区代々木神園町）

② 第33期文楽研修

【応募資格】 中学校卒業（見込みを含む）以上の男子で、原則として年齢23歳以下の方

【応募締切】

〈一次募集〉 募集中～令和6年1月19日（金）必着

〈二次募集〉 令和6年2月1日（木）～3月18日（月）必着

【選考試験】

〈一次募集〉 令和6年1月下旬

〈二次募集〉 令和6年3月下旬

【研修期間】 令和6年4月～令和8年3月

【研修場所】 国立文楽劇場（大阪市中央区日本橋）

※東京の文楽公演時は東京での研修あり

※各研修の詳細、問い合わせ先は国立劇場養成事業のホームページを御参照ください。

<https://www.ntj.jac.go.jp/training/trainee.html>



人事異動あいさつ



9月1日付で、初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室長を拝命いたしました。前職は教員養成企画室長を務めておりました。

これまで、初等中等教育に関する分野では、幼児教育課で勤務をしたほか、学校現場長期派遣研修として京都市立下京中学校で教育実践を経験するとともに、千葉県教育庁指導課、学習指導課において指導行政全般を担当いたしました。

子供たちの「今」と「未来」の幸せのために、全力を尽くしてまいります。御指導・御鞭撻のほど、何卒、よろしくお願いいたします。

初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室長(命) 初等中等教育政策戦略室長(命)
高等学校連絡調整官(併) 国際企画調整室長

こばたけ やすお
小畑 康生

ひとりごと

「夏休みinハワイ」

社会人になって初めての夏休みを迎えた。3連休に休みを繋げて1週間の休暇をとり、飛行機に乗り、日本人御用達のリゾート地・ハワイに初めて降り立った。

仕事の翌日から飛び立ち、帰国した翌朝すぐに出勤するハードスケジュールの中、現地ではリゾート気分でゆっくりしよう決めて向かったのだが、異国の地に降り立った私にのんびり気分は無くなっていった。山に登り、海でウミガメと泳ぎ、中心地を離れた人気店までわざわざ足を延ばして美味しいものを食べ、ハワイアンカルチャーの体験をし、星を見て、日の出を見て、すばる望遠鏡を眺め、本省での仕事さながら忙しい日々を過ごしてしまった。

現地の物価は、激しいインフレに加え1ドル150円近くに迫る円安により日本の2倍から4倍ほどとなっていた。おかげで節約根性が発動し徒歩や本数の少ない安いバスに頼ったせいで、余計に疲れた日々を過ごすことになった（旅行好きの自分にとってはそんな日々もまた楽しかったのだが）。

ハワイ（米国）では、値札上の物価が高いだけではなく、さまざまところでチップが（暗に）求められる（最低賃金もチップ労働者は別で定められている）。15%ほどが標準とされており、キャッシュレス時代にあっても、クレジットカードを差し込む機械に支払いの際にチップの選択画面が現れる徹底ぶりだ。しかもほとんどの機械では選択肢の下限が「20%」であり、それより低いチップ、あるいはノーチップを選択するには、少し違う位置にあるボタンを押さなければならない仕組みとなっている。現地の人も店員の前でそのボタンを押すのははばかれるようで、チップの高騰が不満を招き、廃止論もささやかれているらしい（ちなみに、米国のチップ文化の背景にあるのは黒人差別の歴史ということだ）。チップのおかげかハワイのサービスは大変良いものが多かったが、チップを廃止するとなると、「お金がもらえないのであればよいサービスをしようとは思わない」ことにもなりかねないように感じる（いわゆるアンダーマイニング効果？）。そう思うと、チップが無いにもかかわらずサービスの良い日本は良いなあと感じつつも、良いサービスにはチップで感謝する、という文化も素晴らしいと思う。

他にも観光を楽しむ中でハワイの社会システムや文化などに触れて感じるのが色々あった。旅行は、楽しむものでありつつ、刺激や学びにあふれた時間でもある。。と、こじつけで真面目なまとめ方をしたが、ただのひとりごとである。

(K.K)

「教育委員会月報 令和5年11月号 No.889」

- ・発行・著作 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課
- ・〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2
- ・TEL : 03-5253-4111 (代表)
- ・URL : <https://www.mext.go.jp>



文部科学省